インドネシアの女性たち：希望と挑戦

事実：

- インドネシアの人口は、世界第4位である。
- インドネシアの人口は2億3,760万人（2010年）で、その49.7%が女性である。
- インドネシアは、世界最大のイスラム教徒人口（87.18%）を抱える国である。
- インドネシアは、多文化・多宗教の国である。
  ―“Bhinneka Tunggal Ika”（多様性の中の統一）

取り組み：

- 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（CEDAW）（1984年）
- 北京行動綱領（BPFA）（1995年）
- ミレニアム宣言（ミレニアム開発目標／MDG）（2000年）
- 人身売買、家庭内暴力、ジェンダー主流化戦略、女性の政治参加、レイプ被害者の合法的中絶等に関する法律／規制
- 男女平等・公正法案（継続中）

実績：

- インドネシアの男女は、平等な投票権を持っている。
- 国レベルでは、男女は平等に基礎教育を受けている。
- 妊産婦死亡率（MMR）が、長期にわたって低下し続けている。
- 政府機関が、ジェンダーに配慮した予算と計画の立案を実践している。

挑戦:

- 取り組みが実施され、実績を上げているが、性差に基づく問題は根強く残っている。
- 法令の実施に影響を及ぼす要因:
  - 極めて偏った文化的価値観
  - 性差別とステレオタイプ化
  - 宗教上の教えの偏った解釈
  - 政府職員、法執行機関、一般市民の意識の欠如
  - 政府による統制の欠如

世帯主としての女性

- 文化的価値観：女性は家にいて、男性が外で働き、お金を稼ぐべきだ。
- インドネシアの婚姻法は、男性を世帯主、女性を主婦と見なしている。 → 男女の賃金格差

農村女性に対する差別

- 主婦、介護者、農民としての複合的な負担。
- 女性農民は、報酬を受けるに値する正式な労働者とは見なされていない。
- 家父長制的価値観が強いため、特に健康、教育、経済の面で男性が女性より優先されている。

Women and Marriage

- 婚姻法は、最低承諾年齢に関して児童の権利に関する条約（CRC）に抵触している。
- 婚姻法改正の司法審査が現在進行中である。
- 一夫多妻制に関するイスラム法が濫用され、社会的問題を生んでいる。

女性に対する暴力

- - 女性に対する性的暴力は、女性に原因がある
  - 家庭内暴力は家族内の問題であり、外部の人間が介入する必要はない

  という考え方が広く受け入れられている。

- 女性への暴力事件に対する法執行機関、政府の役人、一般市民の意識が欠如している。
- 現在、性的暴力に関する法案が議会に提出されている。

女性と政治

- ジェンダー・ステレオタイプ：
  「女性は感情的で弱く、指導者にはなれない」
- 議員候補者の30%を女性にするクォータ制度（2003年）。
- 2014～2019年内閣の女性国会議員は97人（17.32%）。
- 2014～2019年内閣の大臣34名のうち、女性は8名（23.5%）

ジェンダー平等･公正法案

- ジェンダー平等・公正法案は2010年に議会に提出され起草された。
- この法案は以下の点において、イスラム強硬派から大きな反発を招いた:
  - *宗教の役割と機能の低下*
  - *女性の無制限の自由と権利*
  - *同姓婚*
  - *LGBT問題*

Thank You...